

バンクシーの「マスクをした真珠の耳飾りの少女 in England」は手厳しい

新型コロナウイルスによる死者の数がすでに2万人を超え、この数がまだ増え続けている英国。それを風刺の力で阻止しようと考えたのか？ マスクをする習慣のない英国社会に向けたバンクシーのパンチの効いた一発である。

バンクシー (Wikipedia)

英国を拠点とする匿名のストリートアーティスト (路上芸術家)、政治活動家、そして映画監督。彼の風刺ストリートアートと破壊的なエビグラムは、独特のステンシル技法で実行された落書きとダークユーモアを組み合わせたものである。

多くは街頭の壁面などに無断で描かれ、落書きとして行政が清掃などの際に消去する事例もあるが、描かれた壁面をアクリル板で保護する建物所有者も見られた。2007年2月のサザビーズオークションで作品6点が372000ポンドで落札された。

2018年10月7日にサザビーズオークションへ出品された『赤い風船に手を伸ばす少女』が約1億5千万円で落札された直後、額縁に仕掛けられたシュレッターが作動して作品は切断された。本人はインスタグラムで成功の喜びと共に仕掛けを仕込む様子を動画で公開して「愛はごみ箱の中に」に改題された。オークション会社はシュレッターの存在を知らなかったと発表したが、バンクシーと組んで話題を作り作品の価値を上げるためのやらせだったと見る向きもある。

2019年12月、日本の兵庫県洲本市の市民公園近くの壁に、バンクシー作の可能性のあるネズミの絵が2点発見された。アートとして評価する意見もあったが、同市としては、公共施設での落書きであり無視できないとして、兵庫県警察に被害届を提出した。

日本経済新聞 2020.4.25夕



図 マスクが描きされたバンクシーの壁画 (23日) | ロイター
図 もともとの状態 (2019年3月撮影) | 上掲
(英南西部プリストル)

マスク足したのは誰？ 英のバンクシー作品

【ロンドン25日共同】英南西部で路上芸術家バンクシーが描いた少女の壁画に、巨大マスクが付け加えられた。英メディアが23日伝えた。誰が付け足したのかは不明。新型コロナウイルスの感染を防ぐため、マスク着用を推奨する国が増える中、英政府は不要論を買い取り、議論を活発化させる狙いもありそうだ。

壁画はオランダを代表する画家フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」のパロディ作品。2014年、バンクシーの出身地とされる英南西部プリストルで見つかった。建物の外壁にもともと設置してあった黄色の警報器を口飾り代わりにしている。ハンコック保健相は23日、マスクを巡る政府方針に現時点で変更はないとした上で、「最新の科学的助言を基に必要に応じて検討する」と語った。

